

六甲・森づくりボランティア ・フォレスター松寿

8期 篠島益夫

フォレスター松寿の成り立ち

私が所属する退職者OB会である松寿会では2009年10月に国交省近畿地方整備局六甲砂防事務所が阪神大震災後に進める「六甲山系グリーンベルト整備事業」に市民ボランティアとして参加を決めました。しかし、その推進役となる代表世話役や世話役は決めておらず登山や山作業に経験のある私が代表を引き受ける羽目になり、一緒にやってくれそうなメンバーに声を掛けて世話役3名を確保、砂防事務所から「森の世話人認定書」を受け取り、活動準備に入りました。

活動地は砂防事務所の事業対象エリアから選ぶのですが、阪神間の参加者を想定して鉄道駅から活動地まで歩いて行ける昔は浜から有馬温泉まで魚を運んだとされる「魚屋道（ととや道）沿いの6ha余りの斜面地」を私と世話役と砂防事務所で決めました。

神戸市東灘区森北町の上部の標高200～350mの尾根筋ルート of 東西の斜面地です。この道は別に谷筋ルートがあり、選んだ尾根筋ルートは当時ほとんど活用されず、背丈の倍もあるネザサとニセアカシア大木の混交林となっており道も不明瞭で薄暗い斜面崩壊の恐れのある山林でした。このような植生を落葉広葉樹の森に切り替える為に開伐～植樹～育樹作業を繰り返すというボランティア活動です。

目的は六甲山南斜面の防災の森づくりですが、発足に当たり「最低20年間の世代を繋いだ活動を見据えて始めよう」という合意がありました。

活動開始15年が目前となった今日では開始当初の松寿会所属の会員が加齢と共に減少して、地元住民・女性・学生の参加が増え、その中から世話役を引き受けてくれる方も増える一方、活動参加者の平均年齢が当初に比べて大幅に若返り、運営面でも新しいアイデアが溢れるようになり、頼もしい限りです。当初の20年間の活動継続の合意は最近では40年という声が若手から聞こえています。

2009年12月が初回活動でしたが、その時の参加メンバーで現在も活動の常連は私と金大出身で1年先輩の蓮井氏だけになってきました。代わ

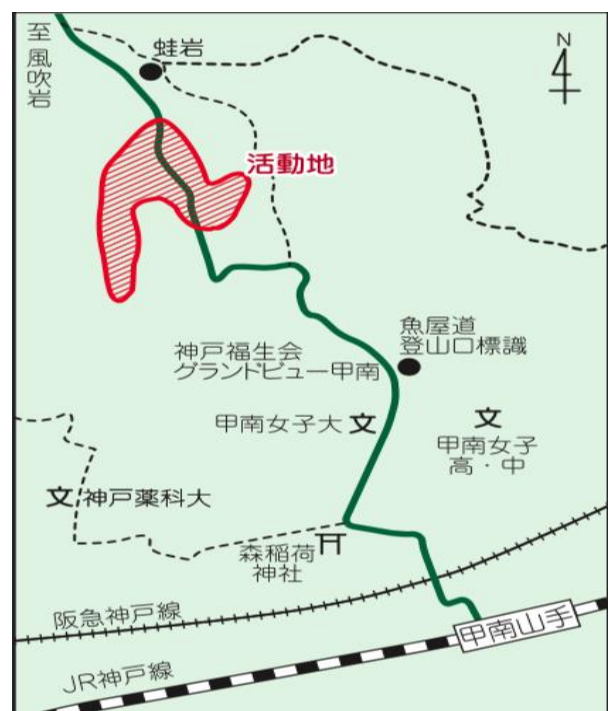
って若手や女性が増えて活動を支えてくれています。代表世話役も初代の私は活動を軌道に乗せる時期でもあり5年間担当しましたが、その後は代を重ねて現在は6代目、活動開始時の私よりも若い永井氏が代表を務め、広い人脈と活動資金の確保策や関連団体との交流でフォレスター松寿を格上げしてくれています。



上・写真（2010年1月）

活動初期の開伐作業：鎌・刈込鋏・鋸などの活動道具は全て砂防事務所からの借り物。現在はエンジン式草刈り機・電動式草刈り機など10台・チェーンソー1台・その他の作業道具も全て自前。チェック模様上着の作業者は篠島。

下・地図 活動地と周辺の略図：JR甲南山手駅から活動地まで徒歩40分、登山口付近には活動基地となっている機材倉庫がある。



六甲山グリーンベルト整備事業とは

1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災では住居や都市インフラの大被害が報道の中心でしたが六甲山系でも1000ヶ所余りに及ぶ崩壊が発生しました。今後の風水害による更なる災害発生も危惧される事態に復旧作業を急ぐと共に、長期視点では六甲山地に一連の樹林帯（グリーンベルト）を守り育て、土砂災害に対する安全性を高め、緑豊かな都市山地としての環境と景観を作り出そうと各方面からの提言を受けた懇談会と国交省六甲砂防事務所により今後の六甲山地の整備方針が纏められました。

この「六甲山系グリーンベルト整備基本方針」に基づいて、国立公園部分を除く整備対象エリアが定められました。

エリアは神戸市須磨区鉢伏山から宝塚市岩倉山までの80ヶ所余りですが、これを国費だけではなく、ボランティア活動で進める事となりました。スタートは市民ボランティアと企業ボランティアの募集から始まり、現在では約50団体が参加してそれぞれの担当エリアで活動しています。

フォレスター松寿も2009年10月に参加、活動地での作業開始は同年12月12日が第一回目の活動でした。

活動の支援者（人・もの・かね）

先ず活動参加する「人の確保」ですが、ここで苦しみ翌年2010年の毎月の定例活動にも10名以上の参加を見たのは2回だけでその他は1桁の参加にとどまりました。しかし、人づての募集努力で2011年からは毎月例会では2桁以上の活動参加が安定しました。その後は活動地周辺の大学（甲南女子大・神戸薬科大・甲南大・関西学院大）に絞ったPRや東灘区役所の活動募集支援などから大学、地域住民、地元職域からの現役社員や女性の参加が増え、スタート時のOB会中心の参加者の構成が急速に変化してゆきました。これは各企業のボランティア参加推奨策や大学生の継続参加が単位認定になる等の想定外の社会変化もプラスしたのでしょう。

次は「もの&かね」ですが年会費1000円では活動に伴う傷害保険の付保で消えてしまうので、当初の2年足らずの活動期間は砂防事務所からの借用道具のみでした。しかし、2011年には補助申請していた企業からの支援金確保が決まり、日本

緑化機構などからの補助金確保が続くようになると自前の道具の購入が可能に、この資金確保は申請する相手こそ毎年増えるが、手分けして多数の補助申請作業を継続しています。このような資金確保については現在に至るも変わりませんが、やれば出来ます。しかし、補助金を受けると正確な活動や使途報告と会の決算報告が煩雑で、これは会計処理にたけたメンバーが引き受けて、今はその後任者に引き継がれています。

自前の道具が増えると、活動時にはこれを取り出し、活動を終わると道具を保管する場所が必要になります。此処で注目したのは作業の登山口（ととや道の入口）に大規模な老健施設があり、私がダメもとで飛び込んで施設長に面談、活動主旨説明の上、道具保管場所の提供を申し入れたところ、活動主旨に賛意を頂くと共に施設内での保管場所を決めて頂く事に、これが始まりで現在では施設内ではなく、同施設の敷地内に用地を借りて2棟の大型収納物置を設置させてもらっています。無料で提供頂いて我々の作業準備場所と機材保管ができています。

登山口まで僅か50mという立地に活動拠点を得た事はフォレスター松寿の今日に至る大きな成果要因です。現在では自前の倉庫や作業準備基地のごとく利用していますが、この場所の無料提供者である社会福祉法人神戸福生会への感謝を忘れないよう、昨年からの老健施設の正面アプローチエリアの剪定や草払いは当会に任せて頂くよう申し入れ、了解のもとに当会の作業前後に整備を続けています。無縁だった双方にこんな絆が生まれるとは感謝と共に偶然の縁に驚くばかりです。我々の活動が15年で此処まで拡張したのは全く、活動参加者やこれらの人々のお陰です。

下・写真 活動地・集合写真(2022年3月)



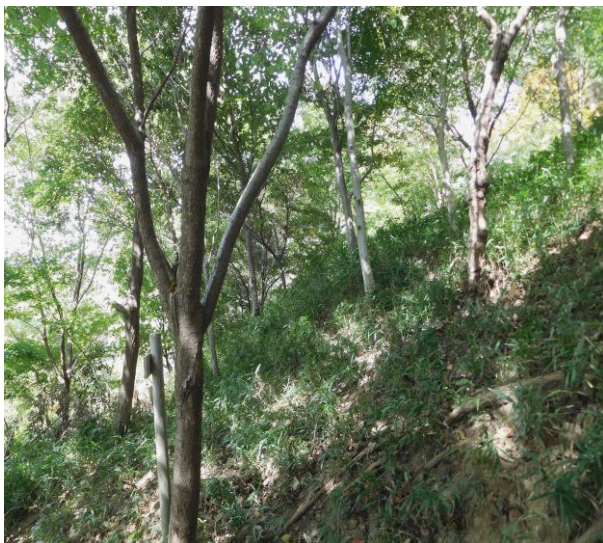
これまでの活動の成果

2009 年 12 月～2023 年 3 月までの活動成果

- ① 活動回数 延 169 回 (2023 年 3 月現在)
- ② 活動参加者 延 3744 人 (2023 年 3 月現在)
- ③ 植樹本数 1247 本 (2023 年 3 月現在)
- ④ 正会員 41 名 (2023 年 10 月現在)
- ⑤ 決算 毎年度 3 月



上の写真・植樹に取り組む女性チーム (2022 年 3 月)



上の写真・2011 年 3 月植樹の現在 (森らしくなった)



大臣表彰 (2017 年 6 月・於金沢市・陛下御列席)

